

即興でやり取りする力の育成を目指して ークリエイティブディベートの実践を通してー

小松崎 美重

【要約】 「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」を育成するために、相手とのやり取りを重視した活動を行い、即興で話す力、自分の置かれた状況を判断し臨機応変に対応する力を育成し、自分の伝えたいことを相手にしっかり伝えるだけでなく、相手の言っていることをきちんと理解できるような力を育みたいと考え、「クリエイティブディベート」という単元を設定した。教科横断的な視点を踏まえた単元構成や、読み物からのインプットを元に英語で話し合うなどの工夫を行うことで、生徒の即興力を高めるとともに、単元間や各教科等との学びのつながりや有用性を生徒が実感できるのではないかと考えた。

単元を3つに分け、話す相手の人数や内容において段階的指導を行うなかで、生徒は自分の伝えたいと思うことを少しずつ伝えることができるようになり、英語と他の教科等の学びを関連させて考えたり、英語を学ぶことの意義を感じたりすることができるようになってきた。

【キーワード】

「思考力・判断力・表現力」 教科横断的な学び 新たな考えを生み出すディベート
読み物資料をもとにした話し合い 即興力

1 主題設定の理由

平成29年公示の中学校学習指導要領外国語改訂の趣旨には、コミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」「書くこと」の言語活動が適切に行われていないこと、「やり取り」「即興性」を意識した言語活動が不十分であること、複数の領域を統合した言語活動が不十分であることなどがあげられている。外国語を使って何ができるようになるかを明確にするため、指導の観点は従来の4領域（「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」）から5領域となり、「話すこと」は「やり取り」と「発表」に分けられた。これらの5領域を統合させた言語活動を行うことは、1時間の中では限界がある。そこで本校では、数年前から「単元を貫く課題」や「単元のゴールとしてのパフォーマンス活動」を設定し、毎時間の導入や終末を工夫しながら「帯活動」を行ってきた。各領域の技能を統合的に用いることができるような課題、あるいはパフォーマンスゴールを目指してきた。また、これにより、単元末に何ができるようになるのかが明確になるとともに、単元の中で学んだ語彙や表現が、単元末のゴールに繋がることが実感でき、生徒の目的意識や意欲も高まってきた。しかし、学習指導要領の求める、「学んだ語彙、表現を異なる場面で繰り返し活用することで表現する力を高める」ことは、今までの取組では不十分である。帯活動やパフォーマンスゴールの内容の改善・充実を図り、考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動を一層重視するために、平成30年度第2学年で取り組んだのが「クリエイティブディベート」である。

ディベートでは、賛成か反対か、AかBかを決めなければならない。しかし、現代的な課題においては、どちらか一方に決めることができない問題や課題も多く、多面的な見方・考え方を生かし、折り合いをつけて別な答えを見いだすことも必要な時代である。そこで、ディスカッションの要素も取り入れ、AとBそれぞれのメリット、デメリットについて論じた後で、それを元に新たなCの提案をするものとし、本校では「クリエイティブディベート」と呼ぶこととした。今まで身に付けた知識・技能、あるいは並行して行われる英語授業だけでなく、各教科の学びにおいて身に付けた知識や技能をクリエイティブディベートに生かしたり、クリエイティブディベートで気づいた新たな視点や折り合いを付ける力が、教室での話し合いや各教科の学びに生かされたりするような往還的学びが生じることを期待し、本主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 即興的なやり取りに必要な知識・技能だけでなく、方略等の技能について生徒の気づきを促し、身に付けさせていくことで、即興力を高める。
- (2) 思考力・判断力・表現力等の育成をするとともに、各単元や各教科等の学びのつながりに気付かせることで、英語学習により意欲的に取り組むことができるようにする。

3 研究の仮説

- (1) 即興的なやり取りを繰り返し行うことで、即興的なやり取りに必要な知識だけでなく、方略等の技能について生徒自身が気付くことで次第に即興力が高まるのではないかと。
- (2) 授業で学んだことが生かされる場面を設定することで、既習事項を繰り返し活用し、基礎的・基本的な文構造が定着するだけでなく、「理解していることをどう使うか」という思考力・判断力・表現力を育成する場になったりするのではないかと。また、生徒は自分の生活や他教科の現在の学びを関連

付けることで、学んだことへの意味付けができ、英語学習により意欲的に取り組むことができるようになるのではないかと。

4 研究の内容

(1) 生徒の実態

本研究は平成 30 年度第 2 学年生徒 157 名を対象に行った。本学年の生徒は少人数でのコミュニケーション活動やグループワークに熱心に取り組む、相手の意見や自分と違う考え方を大切にすることができる生徒が多い。しかし、コミュニケーション活動には苦手意識をもつ生徒や学習意欲の低い生徒もおり、中には英語学習の意義を見いだせず、活動に取り組むことさえも難しい生徒がいる。また、他者から意見やアドバイスを言われることは自分を否定されることと捉える生徒や、英語以外の学習においても「自分の意見をもつこと」やそれを表現することが苦手な生徒もいる。

平成 30 年 9 月に 1 クラスを抽出して行ったスピーキングに関する実態調査(図 1)によると、ペアやグループでの活動に安心感をもつ生徒が多い。「ディベート的話し合い」は生徒にとって初めての活動であるため、初期の段階でペア活動やグループ活動を取り入れる。協同的に学び合う場面で、考えの練り合いや磨き合いを行い、お互いのよさを生かす経験や、苦手を克服し、自信をもつ経験ができるようにしたい。さらには、英語をツールとして、お互いに意見交換することで新しい視点や発想を創造する面白さ、コミュニケーションの楽しさを実感することで、今後の学習意欲の向上につなげたい。

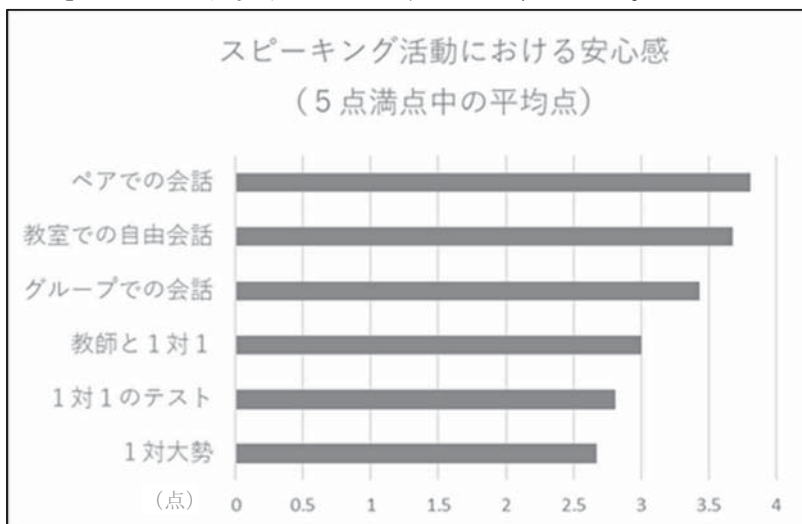


図 1 スピーキング活動における安心感 (平成 30 年 9 月 6 日実施 37 人)

(2) 単元構想

本単元では、第 1 学年で学んだ基本的な文構造やコミュニケーション活動の基礎を生かしながら、第 2 学年で学ぶ “I think ~ because…” 等の意見の述べ方、文意を補助する適切な助動詞の使い分けなどを統合的に活用することで、それらの表現を定着させたいと考えた。Unit 4 では have to, must, will などの助動詞を、Unit 5 では自分の意見や考えを伝える I think ~ の表現や if, when, because などの接続詞を学ぶ。これら二つの単元をまとまりとして見たときに、育成したい資質・能力を「自分の意見や考えをきちんと相手に理解してもらう力」や「他者との話し合いを通してお互いの考えに折り合いをつけたり、新たな考えを創造したりすること」と設定した。これは英語に関わらず様々な場面で必要になる資質・能力であるが、1 時間の授業内で学んだことを活用する場を十分に確保したり、繰り返し使用することで定着させたりすることは難しい。

そこで二つの単元をまとまりとしてデザインし、二つの単元を貫く題材「クリエイティブディベート」を設定した。授業で学んだことを活用・応用できる場、さらにそれらの力を伸ばしていく場とした。

時	学習内容・目標
1	[Part1/Part3 の目標文の導入と運用] <ul style="list-style-type: none"> Unit4 の目標と学習内容を知る。 have to/must と、その否定形の意味・形・用法を理解する。 家での決まりごとについて、must /have to を使い分けて表現する。
2	[Part1/Part3 の目標文の導入と運用] <ul style="list-style-type: none"> have to/must の否定形を用いた文の構造を知る。 前時の家での決まり事に don't have to /must not の文を追加する。 友達と家庭のルールについてコミュニケーションをする。
3	[Part2 の目標文の導入と運用] <ul style="list-style-type: none"> 助動詞 will を用いた文の構造を知り、be going to と will の違いを理解する。 助動詞 will を用いた Practice に取り組む。 友達と手相占いか色占いをやる。

図 2 Unit4 の単元計画

時	学習内容・目標
1	[Part1 の目標文の運用] <ul style="list-style-type: none"> Universal design について知っていることを挙げる。 If ~ の文の形・意味・用法を知る。 おすすめの店について if を用いた会話活動を行う。
2	[Part1 の内容理解] <ul style="list-style-type: none"> If を用いて復習をする。 Universal design について知っていることを挙げ、共有する。 Universal design の広告を読み、その利点を知る。 広告の商品のそれぞれにどのような利点があるか考える。
3	[Part2 の目標文の運用] <ul style="list-style-type: none"> I think(that) の文の形・意味・用法を知る。 I think (that) を使って意見交換をする。
4	[Part2 の内容理解] <ul style="list-style-type: none"> I think (that) の復習をする。 光太の失敗について読み取り、dictogloss で表現する。
5	[Part3 の目標文の運用] <ul style="list-style-type: none"> When の文の形・意味・用法を知る。 自分の日常について when を用いて会話をする。

図 3 Unit5 の単元計画

【この二つの単元で育成したい資質・能力】

「自分の意見や考えをきちんと相手に理解してもらおう力」や「他者との話し合いを通してお互いの考えに折り合いをつけたり、新たな考えを創造したりすること」

【二つの単元に共通して使用する題材「クリエイティブディベート」】

授業で学んだことを活用・応用できる場、さらにそれらの力を伸ばしていく場とする。授業内容とクリエイティブディベートを並行して行うことで、授業で学んだことはクリエイティブディベートに、クリエイティブディベートで学んだことや反省は授業に生かされる往還的な学びを繰り返す中で、資質・能力が育成できるのではないかと考えた。

(3) クリエイティブディベートについて

生徒の授業の様子から、英語以外の学習においても「自分の意見をもつこと」やそれを表現することが苦手という生徒が複数いることが分かった。しかし、英語だけでなく日本語を用いても「自分の意見や考えを、きちんとした根拠とともにしっかり述べるができるようになってほしい」という思いがあった。さらには相手の意見の長所や理解できる部分を受け入れることで、自分の意見をより明確にしたり、多面的な思考ができたりするようになる。それに最適な学習方法を考えたときに、「ディベート」を設定した。しかし、前述のように、この授業の他にも活用することが可能な資質・能力を育成することを目指すならば、現代の課題としては「AかBか」「YesかNoか」だけでは解決できない問題や課題も多いことから、ディベートの手法を生かしながらも、折り合いを付ける力を育成することはもちろん、正解が一つとは限らない現代的課題や問題に、多様な考えをもつ他者とともに課題解決を図ろうとするものの価値に気付く態度を育むようにしたいと考えた。ディベートの手法を生かしディスカッションやプレゼンテーションを行いながら、既存の考えだけでなく新しい考えを創造することができるような活動にしたいと考え、「クリエイティブディベート」と名付けた。

トピックと学習形態

次	トピック	学習形態	手法	その他
第1次	弁当と給食どちらがよいか	3人グループ	ディベートの手法中心	<ul style="list-style-type: none"> 給食・弁当どちらの立場も必ず経験する。 より説得力があったのはどちらか判定もする。
第2次	赤鬼は村の人々と仲良くするためにどうすべきだったか	ペア	ディベートの要素を活かしながらもディスカッション寄りになっていく	<ul style="list-style-type: none"> 道徳(小学校3～4年生)の読み物資料(Total English Book3にも掲載)から、赤鬼の行動について考える。 提案に対して賛成・反対の意見をもらったり、質問をしてもらったりしながら、自分の意見をより明確で根拠のあるものにする。
第3次	東京オリンピックの開会式で日本について紹介したら	個人	ディベートやディスカッションの手法を生かしながらもプレゼンテーション寄りになっていく	<ul style="list-style-type: none"> 既存のものに固執せず新しい考えを生み出すために、経験したことがないような状況を設定する。 提案に対して賛成・反対の意見をもらったり、質問をしてもらったりしながら、自分の意見をより明確で根拠のあるものにする。 プレゼンテーションを他学年に聞いてもらい、相手意識をもたせるとともに、即興的なやり取りができるようにする。

表1 クリエイティブディベート計画

(4) 授業計画

生徒の実態から、話し合い活動を苦手とする生徒もいるため、本題材では、4ヶ月の取組に以下の3つの段階を設定し、平易な話題や内容からやや難しいと思われる話題や内容へ、グループ活動から個人の活動へと、内容や学習形態の段階的指導を行った。

① 第1次

意図的に組み合わせた3人組によるグループディベートを行う。問題解決に必要な手法を友達と話し合いながら理解したり考えたりし、時には役割分担を決めて準備をしたりアイデアを出

し合ったりする。第2次ではペアディベート、最終的には1対1でのディベートへと次第に負荷を大きくしていくことで、少しずつ自信を付けたり苦手意識や不安を軽減したりできるようにしていく。また、ディベートやディスカッションそのものの面白さや価値が分かるように、手法的な側面と内容的な側面にもレベルを設定し、JTEとAETの協力・分担によって指導をした。

第1次では、ディベートの目的や手法、マナー、意見を述べるために必要な表現など、ディベートの側面を中心に、基本的なことを学ぶ。自分の意見をきちんともちながらも、相手意識を大切に、相手に分かりやすく、相手が納得できる提案をするために、相手の立場からの意見も述べるなど、「両方の立場」を必ず経験する。ゴールは「ディベートに関する知識を身に付け、グループで意見と三つの理由を述べることができる。」と設定した。

② 第2次

グループディベートの人数を減らしペア活動とする。同じ手法を用いながら、より分かりやすく、第三者も納得できるような意見の提示をしたり、Our rubric (My rubric)を作成し、自分たちで目標を設定したり、単元のゴールに近づくための取組や手立てについて振り返りや内省を促したりしながら、学習や会話の質も重視させたい。AかBかをディベートするだけでなく、Cの新しい考えを創造するディスカッション手法も行う。

英語科における「思考力、判断力、表現力等」を育成するには実際に英語を使用することが大切である。使用しながら自身の会話についてビデオやボイスレコーダーに記録し、話し方や内容を客観的に振り返りながら、さらによりパフォーマンスを目指していく学習の振り返りの時間や友達同士の相互評価によるアドバイスタイムも大切にしたい。今年度は発達段階を考慮し、日常的な話題から始め、最後には読み物資料をもとにした道徳的な話題について考えることができるようにしたい。ゴールは「1つのトピックに関して、2つの側面から意見交換をした後、第三者を納得させる新たな意見や考えを創造しようとする事ができる。」と設定した。

時	学習内容・目標
1	〔ディベートに関する理解〕 ・ディベートの目的、考え方、ルールやマナーを理解する。 ・1つの話題に関して賛成・反対とその理由を双方考える。 ・接続詞、助動詞の効果的な使い方を知る。 ・「弁当と給食どちらがよいか」の話題について準備をする。(個人→グループ) ※賛成・反対は自由選択不可
2	〔ディベートの練習1〕 ・「弁当と給食どちらがよいか」の話題について、グループの意見と理由を考える。 ・ディベートの評価について知る。 ・「弁当と給食どちらがよいか」の話題について、3グループでディベート①をする。(2グループはディベート、1グループは評価) ・評価グループから意見をもらう。
3	〔ディベート練習2〕 ・反省と評価をもとに意見や理由を再考する。 ・前時と同じ3グループでグループディベート②をする。 ・タブレットやボイスレコーダーでパフォーマンスを確認し、STEP2につなげる。

図4 クリエイティブディベート (第1次)

時	学習内容・目標
1 2	〔クリエイティブディベートに関する理解〕〔ディベートの練習1〕 ・ディベートの手法を生かして新しいものを創造する視点について理解する。 ・Red Demon and Blue Demonを読み、Blue Demonの行動に対して賛成・反対とその理由を双方考え、伝え合う。 ※賛成・反対は自由選択不可 ・Our rubricを作る。
3 4	〔練習2〕 ・Red Demon and Blue Demonを読み、Blue Demonの行動の是非を話合う。 ・賛成・反対の意見を述べた後、どうすれば良かったのかを考え、話合う。 ・Our rubricで本時の振り返りをする。
5 6	〔練習3〕 ・前時の録音(録画)を確認し、本日の活動の目標をもつ。 ・賛成・反対の意見を述べた後、どうすれば良かったのかを考え、話合う。 ・Red Demon Blue Demonはどうするべきだったか自分の考えを書いてまとめる。

図5 クリエイティブディベート (第2次)

③ 第3次

第2次までの学習を生かし、一人でも意見や考え方をまとめることができるようにしたい。また、即興的な話題に対しても、少しの準備でなんとか意見をまとめなおし、相手に理解を示しながら、ある考えをもとに新たな価値ある意見を創造する活動にしたい。

既存の考えに固執せず新たな価値ある意見を生み出すために、未知の状況を場面設定に生かしたいが、あまりに自分の生活とかけ離れていたり、状況が想像しにくい話題だったりでは、実際の使用場面も思い浮かばない可能性もあると考え、AETと相談して「東京オリンピックの開会式で日本を紹介するとしたら」という話題を選んだ。提案に対して賛成・反対の意見をもらったり、質問してもらったりしながら、自分の意見をより明確で根拠のあるものにする事や、プレゼンテーションを他学年に聞いてもらい、相手意識をもたせるとともに、即興的なやり取りができるような工夫をした。

以上の第3次までを2年生の活動とし、3年生ではさらに社会的な話題を伝え合うことができる力まで高めたい。

Red Demon and Blue Demon

昔々、ある山の奥に赤鬼と青鬼が住んでいました。赤鬼は心の優しい素直な鬼でしたが、人間の友達が一人もいませんでした。(284 words)

新田広介作「鬼いた赤鬼に」より

2A 赤鬼の悩み

Once upon a time, Red Demon and Blue Demon lived in the mountains of Japan. Red Demon wanted to be friends with children. So he put a board in front of his house. He wrote these words on the board: "Open house. Please come in." But everyone was afraid of him, so no one came in. He felt sad and finally took the board away.



Total English Book3

"Red Demon and Blue Demon"

図6 第2次で使用した読み物資料

時	学習内容・目標
1	〔クリエイティブディベートの復習〕〔ディベートの練習1〕 ・クリエイティブディベートとは何かを確認する。 ・与えられた話題についてメモなどの準備のみで意見交換をする。 ・話題を深める方法や、広げる方法について考える。 ・My rubric を作る。
2	〔ディベートの練習2〕 ・前回のクリエイティブディベートの反省を踏まえて新しい仲間と意見交換練習をする。(2~3回) ※三人組の1~10班と11~20班など可能なら少人数で行う。 ・My rubric で本時の振り返りをする。
3	〔ディベートの練習3〕 ・前時の録音を確認し、本日の活動の目標をもつ。 ・My rubric を更新する。 ・新しい仲間と意見交換練習をする。(2~3回) ※三人組の1~10班と11~20班など可能なら少人数で行う。 ・My rubric で本時の振り返りをする。
4	〔ディベートの評価〕 ・3人組でパフォーマンステストを受ける。

図7 クリエイティブディベート(第3次)

(5) 授業の実際(第2次)

① 題材の目標

- 相手の意見に理解を示しながら、これまでに学んだ表現を統合的に用いて、間違えることを恐れず、積極的にやり取りをしようとする。(学びに向かう力・人間性)
- トピックについて理由や説明, 例を相手が理解できるように述べるができる。(知識・技能)
- 質問したり, 確認したりするなどして, 相手の意見や伝えたいことを正確に理解することができる。(思考力・判断力・表現力等)

② 指導と評価計画(12時間扱い)

時間	次	時	学習内容・活動	評価計画				
				学	知	思	評	規
第1次	1	1	〔課の導入〕 ・本単元で身に付ける技能・理解する内容・評価について知る。 ・この課と英検CAN-DOリストとの関連を知る。 〔ディベートに関する理解と練習①〕 ・ディベートの方法を知る。 ・3人組グループで「弁当と給食どちらがよいか」についてディベートを行う準備をする。	○			④評価規準【評価方法】 ○指導上の留意点	◎規準を満たすための手立て
			2	〔ディベート練習②〕 ・3人組グループで「弁当と給食どちらがよいか」についてディベート練習を行う。 ・2つの班で意見交換をする。	○	○	④ディベートの方法を理解し, 班のメンバーと意見や理由を意欲的に出し合うことができる。 【観察・ノート】	◎班での意見の再考・練り上げや他の班からの助言を行い, 生徒の主体的・協同的に学び合う場面を設定する。
			3 4	〔ディベート〕 ・3人組グループで「弁当と給食どちらがよいか」についてディベートを行う。 ・2つの班で意見交換をする。		○	○	④既習表現を用いて, 班の意見を分かりやすく伝えたり, 聞き返しや確認を用いて相手のことをよりよく理解したりすることができる。 【観察】
第2次	1	1	〔クリエイティブディベート練習①②〕 ・ペアディベート・クリエイティブディベートについて確認する。 ・"Red Demon and Blue Demon"を読んで, 2つのペアでBlue Demonの行動の善し悪しについて意見交換をする。(ディベート)	○	○		④意見交換の話題について考えて, メモによる準備を意欲的に行おうとする。 【観察・ワークシート】	◎ペアでの意見の再考・練り上げや他のペアからの助言を行い, 生徒の主体的・協同的に学び合う場面を設定する。
			2	・2つのペアで「Blue Demonはどうすればよかったか」について意見交換をする。				④既習表現を用いて, 自分たちのペアの意見を積極的に述べようとする。 【観察】

第 2 次	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える工夫・伝わる工夫について振り返りやシェアリングを行う。 ・our rubricを作成する。 				りに発言・発表ができるように段階的な指導を行う。
	<p>【クリエイティブディベート練習③】</p> <p>1 英語であいさつをする。</p> <p>2 クリエイティブディベートのゴールを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Use debate technique and think; "Was it the best way to help Red Demon?"</p> </div> <p>3 クリエイティブディベートをする。 (1) 本時話合う内容についてあらすじを読み返す。</p> <p>(2) 本時のトピックについてファーストディベートを行う。(ペア) 準備5分 ディベート3分×3回 ※肯定1回・否定1回・ジャッジ1回</p> <p>(3) 2つのペアで意見の練り上げを行う。 10分</p> <p>(4) セカンドディベートを行う。 ディベート4分×2回 ※肯定的立場から1回・否定的立場から1回</p> <p>4 本時のまとめを行う。 (1) 言いたかったけれど言えなかった表現を確認する。 (2) Our rubricを記入し、本時の振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例：Red Demon could do something else by himself for example do volunteer for the village so that children thought Red Demon was a good demon.</p> </div>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○英語であいさつやデイリークエスチョンを行い、英語の時間への切り替えを促すとともに、英語のみを用いて表現しようとする雰囲気を大切にします。 ○クリエイティブディベートのゴールを確認し、建設的な意見を述べられるようにする。 ○Our rubricを参照し、前回までの達成度を確認する。また、自分で課題を見つけ、解決しようと目的をもって活動できるようにする。 	
	<p>3 本時</p> <p>○練り上げ前と練り上げ後の変容を自己認識するために、5分間の準備のみで最初のディベートを行う。</p> <p>○相手を論破することが目的ではなく、第三者に納得してもらえるように、第三者にも分かりやすく伝えることができるようにする。</p> <p>◎1回は肯定の立場、1回は否定の立場で意見を述べることで、セカンドディベートでの視点を広げる。</p> <p>◎即興的なやり取りの能力発達段階を考慮し、正確さを求めすぎないようにする。</p> <p>◎ボイスレコーダに録音し、練り上げや振り返りの時間に映像を共有することで、第4時に自分のパフォーマンスを客観的に評価する材料とする。</p> <p>◎話題について積極的に話そうとできたか。また、既習表現を統一的に使い、トピックについて相手の意見を聞きつつ、それに対する自分の考えを表現するなど臨機応変に意見交換ができたか。 【観察・ワークシート】</p> <p>○前回の取組と比較し、より良い自分を目指すための自己評価を行うとともに、短いフィードバックを行い、技能を向上させたり、内容を深くしたりするためのヒントとしたい。</p>				
4	<p>【クリエイティブディベート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアでトピックについてクリエイティブディベートを行う。 ・2つの班で意見交換をする。(notetaker等を行う班を設定し、アドバイスをを行う。) ・代表者のデモンストレーションを見る。 ・ディベートで経験した肯定的意見と否定的意見の両方に触れながら、どうするべきだったかという自分の意見を書いてまとめる。 ・自分の意見についてショートスピーチを行う。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◎既習表現を用いて、自分の意見を適切に表現したり、質問をしながら相手の意見を理解したりすることができる。 【観察・ジャッジシート】 	◎ 分かりにくかった部分や文、会話を継続させたり発展させたりする質問について相手のペアと話し合い、既習表現でどのように伝えれば良いかを話し合う。
第 3 次	1	<p>【意見や考えの構想①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京オリンピックの開会式で日本について紹介するとしたら」について考える。 ・ペアでお互いの意見を交換し、練り合いを行う。 ・提案プレゼンの柱作りを行う。 			
	2	<p>【プレゼンの準備①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京オリンピックの開会式で日本について紹介するとしたら」について、よりわかりやすい表現や論理的な意見の延べ方について考える。 ・プレゼン資料を作る。 			
	3	<p>【プレゼン練習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生に発表を聞いてもらい、表現のわかりやすさや視覚的な効果について検討する。 ・練り上げを行う。 			
	4	<p>【プレゼン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組を作り、1人で発表をする。 ・班のメンバーからコメントやアドバイスをもらう。 ・2回目の発表を行う。 			

5 研究の結果と考察

本研究では、即興的なやり取りに必要な知識だけでなく、方略等の技能について生徒に気付きを促しながら即興力を高めることをねらいとしたが、段階を踏むごとに、生徒の発話量が劇的に増える（即興でスムーズに会話ができるようになった）ことは見取れなかった。やり取りにおける「方略」として、つなぎ言葉を使いながら考えること、相手の言いたいことを確認するために聞き返す生徒や、詳細を理解するために質問をする生徒は多く見られるようになったが、段階を経るごとに話題が難しくなるため、発話量が逆に減ったのではないかと考える。しかし、これは生徒が話題に対してじっくり考えたり、本当に言いたいことを言葉を選んで伝えようとしていたりしている姿の現れであると考えられる。会話におけるスピードやテンポを意識し、即興的に質問しようとする fluency も大切ではあるが、accuracy を意識したり、「本当に伝えたいこと」を伝えたいと思うようになったりすることも大切であると感じる。両者のバランスをとることや、場面によってどちらを意識するのかを、指導する側も生徒も心がけるようにしたい。

特に本当に言いたいことを伝える工夫として、paraphrase（言い換え）練習は有効であった。paraphrase 練習を授業の帯活動においてペアで行ったり、授業中の会話練習からうまくいかなかった表現を取り上げて、どう paraphrase すればよいかを全体で共有したりすることで、よりよい言い換え表現や方法を学び、Unit5 の small talk やクリエイティブディベート第3次の終末における、話したことを書いて確認する部分では次のような変容が見られた。これは即興的なやり取りの中で自分が分からないことを簡単な表現に言い換えてもらい理解すること（下図波線部）や、相手の理解を確認したり補足したりしながらやり取りを継続する上で有効であったと考える。

Unit5 (small talk 1回目)

S1:I want to be a surgeon because I want to help sick people.

S2:Really? What are you doing now to be a …あれなんだっけ?

S1:Surgeon.

S2:sur…なにそれ?

Unit5 (Small talk 2回目)

S1:I want to be a surgeon because I want to help sick people.

S2:Sorry I don't know surgeon. What is…?

S1:Surgeon is a kind of doctor. Surgeon do operations. Do you know Daimon Michiko?

She is a surgeon.

S2:Ah!!! I know! I know!

STEP 3 (赤鬼と青鬼についてどう思うか。よりよい方法とはどんな方法だったか。会話活動中)

S3:Red Demon is a kind demon, too but he used violence. It is a bad way.

STEP 3 (赤鬼と青鬼についてどう思うか。よりよい方法とはどんな方法だったか。振り返りの writing)

S3:Red Demon is a kind demon, too but he hit and punch Blue Demon. It was a bad way.

また、教科横断的な視点からは、小学校低学年の道徳で「泣いた赤鬼」を教材に学習したことがある生徒が多く、内容理解として役に立っただけでなく、青鬼の視点からも解決策を考えたり、他に策はなかったのかを友達と意見交換したりすることで、多面的な見方・考え方ができたことを、総合的な学習の時間の「哲学的思考」に生かす場面が見られた。さらに、クリエイティブディベートを始めた10月以降に国語科で「ディベート」を行った際には、話題に対する自分の考えを議論する学習であったが、英語の学習では必ずAとBの立場の両方を経験したことが、国語の授業に生かされ「自分はAだと思うが、相手の立場だったらきっとBは…を主張してくると思う。」など、1つ話題を多面的に捉えることができていた。

さらに3年生では「東京オリンピック」という実際に起こる出来事に対して、英語という切り口だけでなく、集まる人はどのような人か、どのようなことに興味があるのだろうか、日本の夏の特徴は何かなど複数の情報を統合して「日本」をプレゼンすることができた。これは社会科の学習と関連させて、資料集などを持参して調べている姿も多かった。さらには中間指導として2年生に発表を聞いてもらい、質問をしてもらうことでやり取りを意識することができ、質問をもらうことで自分のプレゼンテーションに足りない部分や分かりにくい部分がないかを客観的に見てもらうことができ

たなど、相手意識を高められた。相手がどのような人かを考え、それまでに学習した言い換えを使う姿も多く、学んだことを「活用する場」となっていた。

以下に生徒が記述した「単元（クリエイティブディベートを含む）の振り返り」を示し、記述から見取る生徒の学びや成長、英語学習に対する意欲の向上、育成された資質・能力、知識・技能等などの変化を見取る一助としたい。

生徒感想（ 知識・技能, 思考・判断・表現, 学びに向かう力(意欲の向上を含む)）

2年生第2次の振り返り

○「泣いた赤鬼」から何度もディベートをし、毎時間新しい考えを見つけたり気付いたりすることができた。特に話している最中に「これはどういうんだろう？」と言い換えの言葉が見つからない時に、ペアの人がすぐにフォローしてくれて、意見が伝わることも多くあった。そしてだんだん自分でも例や言葉を見つけて使えることが多くなった。

また、ディベートを行う相手のグループによって、考え方や発想が全く違うもので、たくさん
の意見を共有し、新しい意見をつくって楽しかった。

○前回のディベートでは学んだことを活かして簡単な単語を使いながら伝わるように話しができた。でも「AでもないBでもないCのものを創る」というクリエイティブディベートでは、自分でどのようなものが最適か考え、また英語でまとめ直すのは大変だった。でも何回も授業をすることで英語ですぐに文を作ることに慣れて会話も続けられるようになった。

○ジェスチャーや分かりやすい単語を使い、様々な視点から意見を言うことが大切だと思った。また、相手の考えを聞いた時もうなずくだけではなく、それに対する自分の意見を言ったり、質問をしたりして議論を深めていくことが大切だと思った。

○最善策を出したり、意見や主張の矛盾や欠点などを指摘し合ったりして、最も良い「誰も泣かない」道を考えることができた。相手の意見を聞いて納得したり、参考にしたりできるところがたくさんあったので、話し合いの重要さや自分の意見をしっかりとつことの大切さがよく分かりました。

3年生第3次の振り返り

○パワーポイントを使って発表したことは社会人になって会社などでのプレゼンテーションの時に役に立つと思った。パワーポイントをより分かりやすく、日本の魅力が伝わるように構成を工夫し、口頭で大切な部分や補足説明をした。これらは（中略）会話時に相手に伝わりやすい工夫をする場合など様々な場面で活用していくことができると思う。

○議論をしたり説明をしたりするときに、根拠をふまえて説明したり体験談を入れて相手がより理解しやすいようにするために、ディベートでの経験が生かされると思う。相手を理解するためによく聞いたり、常に疑問をもつことを心がけながら討論をしたので、このような活動が社会で常に周りに気を配ったり、興味をもったりしてさらに自分を成長させることにもつながると思う。日本の良さについて改めて深く考えられた。日本の良さを世界に広めたい。

○たくさんディベートをして、英語で表現することに対する壁を取り払えた。パワーポイント使用も含め、2年生からの経験が社会にまでつながっていると思う。

○日本という国を改めて語るには、どのような情報が必要かを学んだ。情報をまとめ、上手に伝わるように構造を考え、内容を面白く飽きさせないようにすることなどはよい経験になった。

○学習を通して自分の意見が相手に伝わった時の嬉しさを味わうことができ、普段の生活でも以前より積極的に意見を言えるようになった。

○プレゼンを聞く人の知りたいたい情報は何かを考え、日本人だからこそ知っていること、感じていることをプレゼンすることができたと思う。

○最初はディベートの意味も知らず、自分の意見を言えず、恥ずかしがったりあきらめたりしていたが、今では流暢とまではいなくても、言いたいことを言えるようになった。

○日本の良さを伝えることで伝統文化の後継者が増えたり、日本との間で国際問題を抱える国々と和解したりできるかもしれない。

6 今後の課題

今回のクリエイティブディベートは10月に始めて1月に終わる予定でいたが、通常の授業などとの兼ね合いで、第3次の1時までしか終わりにすることができず、年度をまたいでの活動となってしまった。長期計画のメリットとして、練習を繰り返し行い定着を図ることができることと、段階を踏むことで前時までの学習を次時へつなげながら少しずつレベルアップしていくことを生徒自身が実感できることが挙げられる。しかしデメリットとして、授業時数の確保や学年間連携（相手意識を持たせた発表、指導の継続）が挙げられる。生徒の振り返りからも学びのつながりや、自分の成長が実感できる単元であるので、1人の教師が3年間継続して担当をしなくても、英語科の指導計画や指導方針としてきちんとプランニングし、「学校全体として育成したい力」として示していきたい。

【文献】

文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」平成29年7月

教育調査研究所「教育展望臨時増刊 No. 50」教育出版、平成30年7月